

老年看護学概論

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 野里 同 准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 12時間
期 間	前期		
単 位 数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

超高齢社会を迎えた現在、高齢者は、生きてきた背景や価値観も異なる。核家族で生活している学生にとって、高齢者を身近な存在として関心を持つことから始めていく必要がある。本科目は、ライフサイクルから見た老年期の特徴を理解し、高齢者にとっての健康および加齢に伴う諸機能の低下が高齢者個々の生活にどのような影響をもたらすかを学び、それを支援していく老年看護の在り方を解説し、高齢者の生活の質の確保に必要な高齢者の人権擁護、倫理的課題や社会保障の現状と課題を学び、老年看護の役割を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

高齢者は、生活習慣や価値観が多様であることを学ぶことで、個々に応じたケアのあり方を理解できる。高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を学ぶことによって、高齢者を全人的に捉え高齢者の苦痛の緩和、人権擁護などの必要性を理解することができる。また、高齢者を取り巻く社会制度の成立背景とその目的や役割を学ぶことによって、看護師の役割を認識でき、高齢者のQOLの向上につながる支援のあり方を考察できる。高齢者の社会的な問題（虐待）をPBLやアクティブラーニングをすることで、問題解決能力を身につけることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 7, 8, 9

・到達目標（SBO）

1. 老年期に関する統計的な特徴と将来の推計から今後の課題を説明できる。
2. 老年期の身体的・精神的・社会的特徴を理解し自立に向けたケアの必要性を述べることができる。
3. 高齢者のもつ価値観や社会的背景を踏まえて多様であることを理解し個々を尊重できる。
4. 健康の保持増進・健康問題を理解し、社会資源の活用や多職種との連携の必要性を述べるができる。
5. 感覚器障害のある高齢者とのコミュニケーションの方法を説明できる
6. 高齢者の安全を確保するためのケアを述べるができる。
7. 高齢者の倫理的課題を理解し権利擁護に向けた問題解決能力を身につけることができる。
8. 人生の最終段階にある人の意思決定プロセスの特徴と支援する方法を説明できる。

・ 授業日程

(矢) 西 1-B 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/5	月	2	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>超高齢社会の統計的特徴と健康指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 超高齢社会の現状と課題を統計的な特徴から述べるができる ・ 健康指標から見た高齢者の特徴を述べるができる (平均寿命と健康寿命・有訴者率と通院者率・受療状況など)
4/13	火	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>老いるということ・老いを生きるということ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期の発達課題と喪失体験を理解できる (エイジズム) ・ 高齢者の生活史を知ることによって高齢者の多様性を述べるができる ・ 高齢者の QOL とは何かアクティブラーニングによって考えをまとめることができる
4/19	月	2	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>高齢者にとっての健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者にとっての健康維持・増進の意義について述べるができる ・ 「メディカ AR」アプリを用いて高齢者の健康をアセスメントし、サクセフルエイジングの意義を述べるができる ・ 事例を基に PBL を行い健康についての考えを述べるができる
4/26	月	2	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>高齢者の自立を妨げる要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの要因を述べるができる ・ 事例を基に PBL を実施し介護予防の必要性を述べるができる

6/28	月	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>超高齢社会と社会保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族構成の変化とその特徴について説明できる ・ 要介護高齢者と介護負担について説明できる ・ 介護問題（虐待）の現状と社会資源の活用などアクティブラーニングによって対策を考えることができる
6/30	水	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>エンドオブライフケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人生の最終段階にある人の意思決定プロセスの特徴と支援する方法を説明できる ・ 自宅で最期を迎える高齢者の動画を見て、その人らしく生きることを支えるケアを述べることができる。 ・ グループワークをとおして自分の考えをまとめることができる
7/2	月	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>入院治療を受ける高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院に伴う環境の変化と高齢者への影響を述べることができる ・ 入院初期の援助と家族への配慮の必要性を説明できる ・ チーム医療の必要性を述べるができる
7/6	火	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>高齢者看護と医療安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメント、有害事象（転倒・褥瘡・与薬エラーなど）の予防方法について説明できる ・ 高齢者の身体拘束の是非についてディベートを実施し、他者の考えを聞き、自分の考えをまとめることができる

・ 教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ 老年看護学(1)高齢者の健康と 障害 第5版	堀内ふき他	メディカ出版	2016

推	死にゆく患者とどう話すか	明智龍男・國頭英夫	医学書院	2016
---	--------------	-----------	------	------

・成績評価方法

定期試験 100%により総合的に評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）をいた上で授業に臨むこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。グループワーク等のアクティブラーニングを取り入れ、伝える能力の強化を図ると同時に、事例を用いて問題解決能力とコミュニケーション能力を身につける。また、インターネットクリッカー（SLIDO）等を利用したクイズやディスカッションを行うため、指示があった場合はインターネットに接続できるように準備をしておくこと。

授業終了後は、ノートと教科書・配布資料等を用いて積極的に自己学修を行い、知識と理解の定着に努めること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

試験の結果に応じて授業時に解説する。

レポートに関しては、コメントを記載し学生に返却する。内容に不足があった場合は、個人指導を行う。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：専門分野Ⅱ 老年看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影